

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/7/10 ～ 2017/8/5)

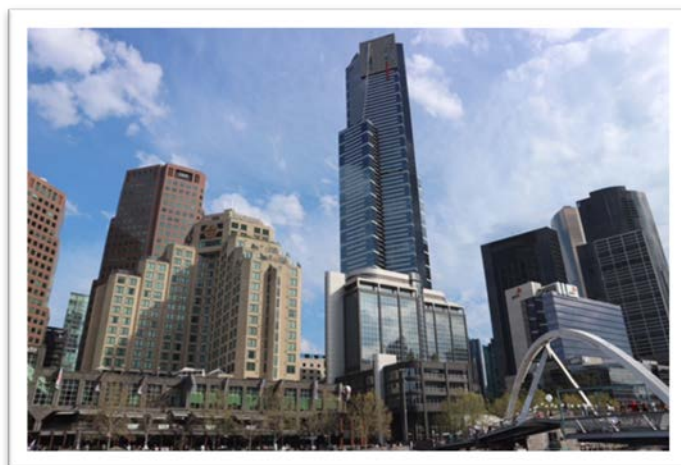
<生活の状況>

とても暑い日本から一転、ここメルボルンはとても寒い季節の真っ只中で、毎日何枚も服を羽織っています。気候の違いはなかなか慣れないものです。好き嫌いの多い僕は、相変わらず食生活に大きく影響されています。

全体的には、以前メルボルンに住んでいた経験から、地理や生活のノウハウがわかっているので生活に溶けこむにはそんなに時間を要しませんでした。しかしながら、留学先のモナッシュ大学は全く知らない土地なので、これもまた新鮮な経験ができて嬉しく思っています。

私の月間報告書では、これから3回に分けて「モナッシュ大学について」(7月)、「住まい・生活について」(8月)、「メルボルンについて」(9月)、の3点を書こうと思います。

今回は、モナッシュ大学について報告させていただきます。



South Bank, Melbourne

モナッシュ大学はメルボルンをメインとして、マレーシアや南アフリカなど国内外に多くのキャンパスを有しています。大半の学生がメインキャンパスである Clayton Campus から第2の規模でシティに近い Caulfield Campus にて講義を受けています。モナッシュの教室や施設はとても清潔で新しく、気持ちがいいです。学内の中心施設には、コンビニ、飲食店街、カフェ、銀行、郵便局、シネマ、旅行会社、バーなどが出店しており、ショッピングセンターみたいになっていてとても便利で、日本の大学とは違った雰囲気を楽しむことができます。

Clayton Campus だけでも千葉大学の4倍以上の面積を有し、サッカー場・ラグビー場・テニスコート・水泳場・ジムなどのスポーツ施設に加え、3つの図書館、学内の寮やバスターミナルなどがあり、とても施設が豊富です。

また、モナッシュ大学にはバスターミナルがあり、メルボルンのあらゆる方面からのバスがモナッシュ大学に集まるので移動にはとても便利です。また、メインの Clayton Campus

は、他の3つのキャンパスへ向けて Inter-Campus Bus という無料の直行バスが 17 分間隔で結ばれており、2つのキャンパスを移動する僕にとってはとても便利なものとなっています。

モナッシュ大学は、留学生と院生を含んだ学生数は 66000 人と言われる超マンモス校で、その分サポートやクラブ・サークル活動が充実しています。Student Union では、留学生も含んだ様々な学生が充実した学生生活を送れるように年中たくさんの催し物を行っており、特に留学生に人気で、僕も早速、欧米諸国から南米・中東・アフリカまで多岐にわたる国々



の学生たちと仲良くなりました。メルボルン中心部の繁華街に出て、バーに行ったりクラブに行くことも少なくなく、その都度友達ができて心強いです。普通のクラブ活動も、サッカー部の練習に参加していろいろな人と仲良く楽しくやっています。フットサルコートやテニスコートは予約すれば誰でも使えるので、友達と予約しまくってサッカーしてます。

全体的な感想としては、施設がとても綺麗であること、人々が優しく活気にあふれているということ、メルボルン市外に出るのはちょっと遠いが特に出なくても周辺で完結することです。少人数の大学もアットホームな感じでいいという人もいますが、モナッシュはマンモス校の割にかなり授業も日常生活もアットホームな感じで、活気があるので、楽しいです。

とてもおススメな学校です。やっぱメルボルンは最高です。

Monash University Clayton Campus

<勉学の状況>

授業について

モナッシュ大学の授業は1コマ1時間であり、1 Semester (半期) につき4つのコース(科目)を履修します。1 Semesterは12週間で完結するように構成されており、1週間の中で1コースにつき3時間の授業があります。授業は少ないですが、モナッシュ大学では授業外の最低学習時間を1コースにつき7時間/週と定められており、1週間では、授業3時間×4コース+授業外学習7時間×4コース=40時間/週の学習時間の確保を

求められています。さらに、僕は留学生なので、+で12時間の週52時間勉強するように今のところ心がけています（これくらいしないとついていけないです）。

千葉大学と違って面白いところは、どのコースも週3時間の授業のうち1時間のレクチャー（教授による一方的な講義）と2時間のチュートリアル（20人以内の少人数の学習セッション）に別れて行われる点です。レクチャーでは講堂で教授の講義を聞き、メモを取ります。続いて、同日の午後もしくは後日に行われるチュートリアルにて、その週のトピックについて少人数でグループワークやディスカッションを行います。このチュートリアルでは、教授は生徒にたくさん質問を投げかけるし、生徒もその質問に積極的に答えたり、自分の意見をアクティブに発言したりします。この点は日本の大学ではあまり見ない点であり、主体的に学ぶこと、自分は学んでいるんだという感覚が味わえることがとてもいいモチベーションになっています。また、レクチャー、チュートリアル共に予習と復習は必須であり、それぞれの授業でweeklyのオンライン課題としての提出が課されています。さらに、これに加えてレポートやプレゼンテーションなどのウェイトの高い評価課題が出されることとなります。

大変になりそうな予感はしますが、クラスの友達に助けてもらいながら、頑張ろうと思います。今はモチベーションが高いのでなんでもできる気がします。来月の報告書が楽しみです。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/8/6 ～2017/9/5)

〈生活について〉

楽しい話題から書きます。

モナッシュでの生活が始まってもうすぐ2ヶ月経ちますが、早速いろいろイベントがあったので紹介していきます。

モナッシュの寮では、寮ごとにイベントがあることが多く、8月には Deakin Ball と呼ばれる寮のパーティーがありました。これぞザ・オージーというようなきちっとドレスアップするフォーマルなもので、日本とは違った雰囲気

の中みんなでスーツやドレスを着て酒飲んで朝まで喋って踊って楽しむという素晴らしい経験をしました。普段から仲良くしている友達と騒ぐだけでなく、新しい人たちと出会う

場としては最高で、新しい友達もたくさんできて良かったです。また、Deakin Hall (僕の寮) の団結を深めるにも最高の機会だったと思います。モナッシュでは、寮対抗のスポーツ大会が頻繁に行われているため、寮は1つのグループとして大きな役割を果たします。寮の友達はただの隣人ではなく仲間だということを実感させられました。しっかりこれからもうちの寮に貢献していきます。



次に、日本の企業が主催しているキャリアフォーラムに参加することを兼ねて日本人の友達とシドニーに週末プチ旅行に行きました。海外留学しているところのようなバイリンガル向けの就活フェアにも参加できるので、それも留学のメリットかと思います。そのフェアにはオーストラリア中から日本人留学生や日本の企業に就職したいオーストラリア人が集まってくるので、将来に向けて刺激しあえる新しい人たちと出会うことができました。

キャリアフォーラムは置いておいて、シドニーではオペラハウスやブルーマウンテンズなどのザ・観光スポットに行ってきました。

週末に行くにはは贅沢すぎるような旅でした。メルボルンーシドニー間はおよそ15分に1便程度の間隔で飛行機が飛んでおり、安くてとても便利です。高校生だった頃と違って、大学生は自由に行動できるので自分の好きな場所に旅行へ行き貴重な経験をするというのも、留学の醍醐味の1つかなと思います。これからも国内外様々な場所を旅して、アップしていきたいと思いま



The Blue Mountains

Sydney Harbour

す！

<私の留学について>

私は、公衆衛生学 (Public Health) について学びたいと思いモナッシュ大学に留学しました。公衆衛生学とは人々に関わる社会状況や生活環境、医療制度など、医療が社会と関わる領域について、日本国内外を問わず研究を行い世界的視野から病気について学ぶ分野です。例えば、日本の子供が下痢をしても数日で元気になりますが、途上国の貧しく栄養不良状態の子供では死に至ることもあります。これには様々な要因が関わっていて、たとえば衛生状況の悪さ、経済的に貧しいこと、知識不足などの教育的側面、文化宗教的な習慣などの要因があります。このように公衆衛生学では、病気と人々の関わりについて社会的見地から研究しています。基本的にこの分野の学びは、医学的な見地を必要とする専門性の高い分野なので医療系の学部 (Faculty of Medicine, Nursing and Social Sciences) に所属することも考えましたが、モナッシュ大学では教養学部 (Faculty of Arts) に所属することで、留学生はすべての学部の全ての授業を選択可能なので、教養学部にも所属しています。現在は、公衆衛生学と教養学部の2つの学部の授業を履修しています。これはとても便利な制度だと思います。

<授業について>

授業 (Tutorial) では、生徒はアクティブに発言し、授業を盛り上げます。公衆衛生学のクラスでは留学生は私一人なので、お前らより英語ができなくて当然だけど発想力とアイデアでは勝とうという自分のモットーの元、たくさん発言したり先生の質問に答えたりしています。講義もディスカッションも全て英語で行われるので難しいことは当然ですが、それ以上に、日本で1度も学んだことのない公衆衛生学について学ぶということがとても難しいです。専門用語、医療用語も容赦なく出てくるので、その都度メモにとっておき、授業中にわからないことは、自習の時に後から自分で理解するということが少なくありません。英語力はそんなに気になりませんが、専門的知識の不足の方が今の自分には重くのしかかっています。変な話ですが、教授に“自分は頑張っている”という姿を見せることは結構大事で、自分から授業後に教授の元へ行ってわからないことを質問したり、教授のオフィスを訪ねたりメールを送ったり、しつこくやっています。モナッシュ大学の先生はとても親切で優しいので、自分からアタックしていけば何でも教えてくれるし、どんなに長い時間であっても付き合ってくれます。当たり前ですが、大学の中に留学生は何千人と存在し、何もアクションを起こさなければ先生にとって自分はその“何千といるアジア人留学生の中の1人”にしか過ぎませんが、行動を起こすことアピールすることで友達も先生もいくらかでも助けてくれます。自分1人で勉強することも必要ですが、周りの知識に頼って吸い取ることも大切なことだと改めて実感しました。

モナッシュの学生はみんなとても優秀で勉強熱心なので、勉強についてはしっかりやっている生徒がほとんどです。授業中に寝ている生徒は見たことがないし、図書館も毎日11

時過ぎてもたくさんの方がいるのを見ます。ネイティブでもこんなに勉強しているのに留学生の俺がみすみす帰るわけにはいかない、と毎日大学受験期並みに勉強しています。勉強に要する時間は膨大ではありますが、自分の好きなことを英語で学べるので、むしろ学ぶことがとても楽しく、毎日の長時間の勉強も苦でもなんともありません。とてもハッピーです。これからも頑張ります。

<住まいについて>

僕は大学のメインキャンパスである Clayton Campus の寮に住んでいます。寮は大学の敷地内にあり、安全性も高く住み心地は良いです。Clayton に住んでいるものの、今学期は履修している全ての授業がシティに近い Caulfield Campus で行われるため、intercampus shuttle bus と呼ばれる大学の無料シャトルバスで通っています。正直、朝ちょっと早く起きなければいけないのが面倒ですが、違うキャンパスに行くことでその分友達や知り合いが増えているので、そういう意味では良かったと思っています。

モナッシュ大学には、15 個ほどの On-Campus Residential Halls (寮) があります。1 つの寮に 200 人~300 人ほどいそだと認識しておりますが、寮はとてもアットホームな感じで最高です。留学生もたくさんいますが、オーストラリアのローカルの子もたくさんいます。それぞれの寮には自分の部屋の他に、Common Room と呼ばれるフットサルコートくらいの大きさの広いリビングやステージや、Theatre Room と呼ばれるカラオケボックスのような映画鑑賞や飲み会用のスペースも確保されています。さらに寮専用の学習ルームやディスカッションルーム、卓球部屋やビリヤード場までついています。僕の寮は新しくないので、キッチンや洗濯機などは共用です。ちなみにご飯は、僕がご飯を作るのが面倒なので、同じ寮の友達と一緒に夜ご飯を作るか作ってもらってありがたくシェアさせていただくことが多いです。炊飯器を買ったので、毎日ご飯を炊き散らしています。Clayton キャンパスの周りには大きなショッピングセンターがいくらかありますが、バスで行って重い荷物を持って帰ってくるのはだるいです。たまに車で連れて行ってもらいます。



南半球最大の

Chadstone Shopping Centre

この他にも、寮対抗のフットサルやバスケの試合が毎週のように行われ、応援したり参加したりしてバカ騒ぎするのが楽しいです。こういった寮のイベントがたくさんあることも留学生にとってはとても嬉しいことです。大学生はどここの国に行っても”大学生”なのですぐに馴染めるので心配ないです。

来月は「世界の住みやすい都市ランキング」5年連続1位のメルボルンのアピールをします！メルボルンに留学したくなること間違いなしです！

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/9/6 ～2017/10/5)

<生活について>

9月に入りましたが、メルボルンはまだまだ寒いです。

そういえば、毎週木曜日の夜は普段一緒にいる友達と家でみんなで夜ご飯を作って映画を見るというスタイルなのですが、今月はケーキも作ったことにより珍しく集合写真を撮ったので、載せます。この友達はアジア人家系の子も見られますが、みんなオーストラリアで生まれた子たちで、ネイティブです。寮に住んでいる僕にとってはオージーの家に入る機会は多くはないので、毎回楽しみなのですが、家がデカ



[友達の家にて]

い！しかも綺麗！自分も将来こんな家を建ててオーストラリアに住んでのんびりしたいなあと思います。木曜日は授業が4時に終わるので、そのあとみんなで図書館に行って勉強をして、6時くらいから移動してご飯を作って食べて映画を見て帰るという流れです。楽しむ前にきちっと勉強するあたりがさすがです。家では、みんなで酒飲んで話をして遊んでワイワイしたりして、バーに出かけるのとは違った楽しさを味わうことができます。日本のことが話題になる時もあるって、その時は質問攻めなので、日本についてのお勉強もします！



[千葉大の友達とメルボルンで遊びました！]

また今月は、語学留学プログラムで1ヶ月モナッシュに来ていた千葉大学の友達と1日遊びに行く機会がありました。キャンパスが違うのでこの日以外は会うことがありませんでしたが、千葉でずっと仲良くしていた友達と異国の地で遊びに出かけるというのは普段と違った感じがしてとても楽しく、絆も深まりました。一緒にメルボルンの有名な観光場所に行ってはしゃいで、留学をしている身だからこそ感じる楽しさや苦労話など様々な話をして盛り

上がりました。それぞれの道で頑張っているという話を聞いて自分もこれからも頑張ろうと思いましたし、みんなも頑張ろうという気持ちになったのではないかと思います。刺激しあえる仲間になんか久々に会えて楽しかったし嬉しかったし、久しぶりの日本語生



活な1日でリフレッシュできました。とても良い仲間たちに恵まれたなあと思います。感謝です。

<メルボルンについて>

さて、先月の報告書にてご連絡した通りメルボルンのアピールをします。できるだけコアなところを攻めていくように心がけます。

メルボルンはイギリスのエコノミスト誌における「世界で最も住みやすい都市ランキング」で7年連続1位に輝いています。中心地区は“ひと・もの・自然”なんでも揃った大都会であり、少し郊外に出るとビーチや山など大自然があります。

メルボルンの何がいいかと言いますと、まずは、留学生にとっては結構重要な問題である公共交通機関について。異国の地で友達の運転する車以外の足がない留学生にとって、公共交通機関の利便性は、様々な場所やイベントへのアクセスの可能性に関わってきます。メルボルンは中心部と郊外を結ぶ電車がな

んと17路線もあり、さらに中心部から都市部近郊のエリアはトラムと呼ばれる路面電車がかなり細かく走っています。いやいや外国の電車なんて使い物にならないと思っている人もいるかもしれませんが、メルボルンの電車はいつも定刻通りにきます。稀に、気まぐれなのか電車が来る時間になってから、“次の電車はキャンセルされました。その次の電車を

ご利用ください”と言ったようなアナウンスが流れますが…
運休になったことを電車が発車するはずの時間になるまで連絡しないあたりがさすがです、オーストラリア。それでも、モナッシュ大学コーフィールドキャンパス (Monash University Caulfield Campus) 最寄りの Caulfield 駅、並びにクレイトンキャンパス (Clayton Campus) 最寄りの Clayton 駅とシティを結んでいる Pakenham Line の電車は、平日の朝と夕方はなんと3分おきに走っていて、そのほかの時間でも



[メルボルンの電車]

5-10分おきに、休日は10-20分おきに走っています。また中心部では、郊外から来る、また郊外に出る全ての電車が4線しかない環状地下鉄線 (Loop Line) を走るため、1分間に1本以上の電車が来ます。良い意味で言えば駅に行けば電車に乗れる、悪い意味で言えばザ・カオスです。また中心部 CBD (Central Business District) に出れば、トラムが基盤状に網羅していて、しかもフリートラムゾーンでは無料で乗れます。また郊外ではバスも発達しており、しかもこれまたほぼ時刻通りに来るというびっくり素晴らしい公共交通機関が揃っています。運賃もゾーン制とタイム制を採用している



[メルボルンの路面電車]

ので、1日どれだけ乗っても\$4.10 (400 円以下) という、信じられない安さです。お出かけに困ることは本当にありません。

次に、有名観光地が多くあることもメルボルンの良いところです。例えば少し遠いですが、グレートオーシャンロード (Great Ocean Road) は、世界中の有名自動車ブランドが CM 撮影のために訪れる場所として有名なほど、美しい海岸沿いの道です。南極へと続く海と海岸線の景色の美しさばかりでなく、途中にはビーチがたくさんあり海水浴も楽しめます。大学の寮でカーシェアの車を借りることができるので、友達に連れて行



ってもらいました。とても綺麗で感動しました。ここは留学でも旅行でもなんでもいいので、訪れてみてほしい場所です！また、フィリップ島 (Phillip Island) と呼ばれるメルボルンの南東にある大きな島では、ペンギンパレードと呼ばれる、夕方に野生のペンギンが海から上がって巣に戻っていく様子を見ることができたり (ペンギンの撮影は禁止されているので写真がありません)、コアラ保護センターでコアラに触ったり、野放しのカンガルーと遊んだり、オーストラリでしか出会えない動物たちとより近い形で触れ合うことができます。



そのほかにもメルボルン水族館 (SEA LIFE Melbourne) や博物館 (Melbourne Museum)、スカイデッキ 88 (Eureka Skydeck 88) と呼ばれる南半球で最も高い展望デッキ、クラウンカジノ (Crown Casino) という世界で4番目に大きなカジノなど、たくさんの観光地があります。ちなみに、以前紹介した南半球最大のショッピングセンター (Chadstone Shopping Centre) や先述のスカイデッキにクラウンカジノなど、どうやらメルボルンは南半球で1番であることが大好きなようです。



最後に、都会的であるが自然がたくさんあるところです。メルボルンの CBD は高層ビルがそびえ、大都会です。しかしながら、ロイヤルボタニックガーデンやそのほかたくさんの庭園・公園 (Royal Botanic Gardens, Fitzroy Garden, Carlton Garden など) があり、都会のオアシス的な感じで人が多く集まっています。また、セントキルダ (St. Kilda) やブライトン (Brighton) といった海浜地区は綺麗なビーチがたくさんあって BBQ や海水浴を楽しむことができ、お店も少しアメリカっぽい雰囲気なので夏は楽しいです。高校留学の時にはこのブライトンに住んでいたため、夏は毎日海沿いの道をサイクリングして泳いでビー

チサッカーをして帰るといった日々を過ごしていました。非常にオススメな場所です。ちなみに、残念ながらモナッシュはもう少し内陸にあるので、今は週末にたまに行く程度です。それでも片道 30 分もあればバスか電車でこの2つの地区に出ることができますので、その気になれば簡単だと思います。



Brighton Beach

さらに、グルメやファッションの街としてもメルボルンは有名です。たくさんの洋服の店がありますし、カフェも西洋風なアーケードにあるものから川沿いのおしゃれなものまで様々あります。グルメも、イタリアンやスペイン・ギリシャ料理から、東南アジア、南米など世界中の国の食べ物のお店がたくさんあります。もちろん移民の人たちが彼らの故郷の料理を作っているのも、美味しさが半端ではありません。まさに、街が毎日世界のグルメコンテストのような感じで、さすがは移民の街メルボルンならではの楽しみの1つであります。先日女優の有村架純さんがメルボルンを訪れている様子をInstagramにアップしているのが話題になりました。別の日にはシティで日本のテレビ局が撮影しているのを複数回見ました。日本航空も9月から成田-メルボルン線を開設しましたし、最近メルボルンはアツアツなのではないでしょうか。



カフェのあるアーケード

このようにメルボルンはオーストラリア第2の都市として都会的なだけでなく、観光地やアウトドアなアクティビティが楽しめるスポットが多いので、時間もお金もあり自由に行動できる大学留学の留学先として最高です。また、ファッションやグルメの街としてテレビで紹介されるような素晴らしい街です。こんなに完璧な都市は他にないと思います！しかもモナッシュは世界の大学ランキングトップ 100 に入るような非常に優秀な大学であり教育の面でも質が高いので、留学先として間違いなしです。こんな世界一住みやすい都市メルボルンで一生の思い出となる世界一な大学留学体験をしてみたいと思いませんか。

< 勉学について >

なんと早いことに Semester1 も半分が過ぎました。毎日毎日、千葉大学にいた頃では考えられないレベルで勉強をしているので、ふと振り返ってみると時間がとても早く過ぎ去っていくように感じます。今のところ勉強の方も順調です。先日グローバルヘルスの授業において mid-semester assessment (日本でいう中間試験のようなもの) の一環としてプレゼンがありました。3人グループで30分だったので、準備のために授業外でも集まってグループワークをしたりしました。こっちの学生は本当に勉強や課題一つ一つに熱心で、プレゼンも進展状況の確認を細かく行ったり相互評価をしたり、サポートも手厚いです。僕もできるだけ情報を集め分析し、プレゼンに備えました。本番は特に緊張することもなく無事に終わらせることができました。留学生僕だけだし、英語を話すスピードが遅いのもよくわかっているので、堂々とやってやろうと思いました。変に心配して緊張するよりも、割り切った方が上手くいくなと思いました。実際、よく頑張ったと先生や他の学生たちが温かく称えてくれ、あの雰囲気はとても嬉しいものでした。

これまでの個人的な印象としては、印象としては勉強時間の割に大変というよりもむしろ

ろ学びが楽しいという感じで、もっと色々学びたいからもっと勉強するという、自分で自分の勉強時間を増やしているような感じです。日本にいた頃では考えられないことです。高校留学をした頃は、英語のクラスを頑張り数学・理科・社会の授業にとりあえずついていけばよかったです。大学での交換留学はいきなりポンっとクラスに入り他のローカルの学生と同じように学び同じ評価基準で成績もつけられるので、やはりそれに比べて大学留学はかなりハードだなあとつくづく感じます。特に成績評価は基準が細かく明確に公開され、それを少しでも満たしていなければ評価がどんどん下がっていくというなんともシビアなものです。何しろモナッシュは70000人の学生を抱え、留学生の数も3000人を超えますので、留学生だからなどという言い訳は全く通じません。そんな中、英語を学びながら英語で新しいことを学ぶということがいかに大変か、身をもって痛感しています。10月末には Semester1 のすべての授業が終わり、3週間の試験週間に入ります。それまでの残り数週間をしっかりと頑張りたいと思います。

さて、7月からの3回にわたる報告書はいかがだったでしょうか。この報告書が、留学に向けて留学先での大学ライフや現地生活のイメージをより具体的にもつきっかけになりましたら嬉しく思います。

今回で区切りがついたので、来月は来月あったことをいろいろ書きます。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/10/6 ～2017/11/5)

生活の状況

10月も終わりに近づき、20度を超える日もちらほら出てくるようになりました。先日は29度の日があったので、友達とレジヤープールに遊びに行きました。一応夏が近づいてきているように感じますが夏本番まではまだまだでしょうか、朝晩は寒く、結構厚めのアウターが必要です。メルボルンは「1日で1年の気候を体験できる」と言われるほど天気の変り変わりが激しい都市で、1日の中の寒暖差も激しいです。しかし基本的に雨の日が少なく、一日中雨ということは年間を通してほとんどありませんし、僕は今回の留学をしてから傘を使ったことが5回くらいしかありません。夏は水不足で使用制限がかかるほど晴れの日が続くので、これからのアツい夏が楽しみです。仕方がありません。

今月は父親が仕事の都合でメルボルンに来たので、同じくメルボルンの高校に通っている弟とホストファミリーと一緒にディナーを食べに行きました。以前夜ご飯を食べさせてもらったことがあります。弟のホームステイのお父さんお母さんともにモナッシュの卒業生ということで今回のディナーでも話が盛り上がり、家族間の理解がさらに深まったように感じます。また、昔通っていた中学校に久しぶりに足を運び、懐かしさを感じながら自分の原点を再確認するとともに、これからも頑張ろうという気持ちになりました。

下の「勉学の状況」にて報告します通り今月は勉強が格段忙しかったので特に面白いことは報告できませんでしたが、来月は試験が終わったらニュージーランドに旅行に行く予定なので、その報告をさせていただこうと思います。

勉学の状況

10月下旬でSemester2の全授業が終了しました。勉強が忙しく、遊びも生活も充実していたので、あっという間の12週間だったように感じます。11月は3週間の試験期間があり、学生はそのいずれかの日に試験が開催されるので、開催される日に試験を受けに行くことになります。僕の試験は3週目にあることになったので、思ったよりも勉強時間が確保できそうで安心しています。

さて、今月は学期末ということで、レポート課題が死ぬほど出ました。例えばPublic Healthのレポートでは、何千とある公衆衛生学の英語論文から1つを選び、理系らしくその論文を分析し、与えられた医学的課題に対してなぜその論文が他の論文に比べて優れているかを分析するレポートが出ました。災害のレポートでは、本を5冊読んでまとめ授業で扱った内容との関係性を記述するものでした。他にも4つくらいのヘビーなレポートに、毎週の課題やレポートがあったので、今月だけで合計40000 wordsは書いたのではないかと思います。朝8時の開館時間から

図書館に行き、夜の11時までは勉強するようにしています。もちろん、お昼などは友達と合流してご飯を食べたりしていますが、大学受験期並みの勉強量であることは確かです。今は大変な時期ではありますが、11月の試験が終わったらホリデイなので、あと少し気を抜かず頑張ろうと思います！

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/11/6 ～2017/12/5)

生活の状況

Final Exam が終わったので、新しいセメスターが始まる来年の2月下旬までの長い夏休みに入りました。先月の報告書でも述べたように Exam の日程は一人一人違うので、実家がメルボルン以外のオージーや海外からの留学生はみんな終わった瞬間に実家や母国に帰るといふ人がほとんどで、Exam が終わると学内は閑古鳥が鳴いています。モナッシュの寮も、継続して寮に住み続けるかどうか関係なく全員 11 月中に退寮しなければならぬので(Exam 終了後 10 日間くらいの猶予しかありません)、荷物の整理・片付けと退寮の準備に追われました。僕は 12 月に 3 週間ほど友達と東南アジア諸国を巡る旅をしてから日本に一時帰国するので、日本で使う冬物をスーツケースに荷物を詰め込んで日本に別送品として輸送し、東南アジア旅行に必要なもの以外(布団・掃除機や生活用品など)はすべて弟の家に置かせてもらいました。この退寮制度は全寮の一時的なりノベーションによるものなので今年だけかもしれませんが、もしかしたら来年度以降も同じようになるかもしれないので注意が必要です。寮の多くの友達が次の学期から普通のアパートメントに住むようなので、今回の退寮を機に、キッチン・バス・トイレ共有で部屋も広くないのに値段が高い(日本円で月 10 万円以上)モナッシュの寮には別れを告げて、僕も次のセメスターは友達とシティのアパートメントでシェアハウスをします。1 年留学するなら最初の半年は大学の寮で安心安全に、後半はシティの綺麗な広い家を友達とシェアして快適に過ごすのがいいかと思います。

さて、住まいについて少し書きましたが、11 月も楽しいイベントがたくさんあったので紹介します。



まずは、寮の最後のイベントとして寮対抗サッカートーナメント大会がありました。モナッシュにある芝生の綺麗なサッカー場で行われ、12 個の寮があるうち 4 位になりました。同じ寮の普段から仲の良い友達と戦う楽しさや絆が深まる嬉しさ、ほかの寮の人たちとの交流もあって、いい機会になりました。これが最後のイベントとなると少し寂しいですが、みんな寮を離れてもまた一緒に仲良く普段集まれると思うと嬉しいです。

また、メルボルンで開催された Color Run というイベントにも友達と参加してきました。このイベントは日本でもやっているそうですが、海外で参加できるのも数少ないだろうと思い参加しました。イベントの内容は、5km のコースを走り、その間所要所に色がつく粉塵を人々にふりまけるスタッフがいてゴールに着くまでにみ



んなでカラフルになろう、というものです。走り終わるとライブなどがステージであって、盛り上がって楽しかったです。海外ならではの盛り上がりとノリがあって、いい経験になりました。

他には、試験お疲れ様ということで、モナッシュ大学に留学している日本人の友達とニュージーランドへ5泊6日の旅行に行きました。今回は南島に行ったのですが、率直な感想は、信じられないくらい綺麗で鳥肌が立つような場所や景色がたくさんあり、1セメスター頑張ってきてよかったと思いました。温泉や綺麗なビーチがある北島とは一転して、南島はザンアルプスと呼ばれる美しい山脈があり、数々の湖やフィヨルドなど壮大な自然が形成されており、今回の旅でもできるだけそういった美しい場所にいけるようにしました。



こんなところへ泊まりました

たとえば、ニュージーランド最高峰マウントクック (Mt. Cook) でハイキングをして、山にあるフッカー氷河湖というところまで往復5時間歩きました。寒いし雨だし道悪いしのととても過酷な環境でしたが、氷河というものを自分の目で初めて見ることができ感動しました。また、クイーンズタウン (Queenstown) という街では、FERGBURGER というニュージーランドで一番美味しいと言われているハンバーガー屋さんに行ってバーガーを食べました。さすがCNNでも取り上げられるだけあって、とてつもなくおいしかったです。また、ワカティプ湖 (Lake Wakatipu) では、雄大な景色をバックに湖でカヤックをしました。そこらへんのカヤッキングとは比べ物にならないよ



うな壮大な景色を前にカヤックできるというのは、ニュージーランド以外ではなかなか難しいのではないかと思います。他にも、テカポ湖 (Lake Tekapo) で温泉に入ったり、クライストチャーチで観光をしたり、ニュージーランド南島を満喫できました。

今回の旅は学生だからこそ実現したと思いますし、大人になってからは簡単にはできないような経験もできたと思います。メルボルンからクライストチャーチまでの飛行機代は往復おおよそ4万円で、現地での生活費やアクティビティ代など含めて旅行全体は15万円弱で済みました。東京からクライストチャーチまで往復飛行機代だけでも軽く15万円以上することを考えると、とても安く済むと思います。



今回の旅行で、やはり大学で留学すると留学先以外の国内都市や近隣諸国に簡単に足を延ばせると改めて実感しました。自由な大学生だからこそ、自由に自分の意思で色々な行動ができるというのはまさにその通りで、やりたいと思えば何でもできるなと思います。オセアニア地域にはシドニーとメルボルンしか大都市はなく (ブリスベンやオークランド以下の都市は小規模)、自然が多く多様なため、アウトドア系な人や自然や動物が好きな人にはたまらないと思います。特にオーストラリアは、上は常夏で下は南極に近く寒めと、国土が広く地域ごとに環境や特色も全く異なるので、旅行は国内で完結できてしまいそうなほどバラエティに富んでいます。1年では

とても回りきれないほどの観光地やスポットがあるのが、大学でのオーストラリア留学のいちばんのおススメポイントです。それから、アジア地域の歴史や国際関係について深く学べるのもいいところです(首都キャンベラにあるオーストラリア戦争記念館は特に深く考えさせられる場所でした)。ただ単に大都市やモダンさを求める留学ならアメリカやヨーロッパでいいです。やっぱりオーストラリアは最高です。早くサーフィンがしたいです。

来月12月は日本へ一時帰国しますが、その道中に東南アジア巡りをして帰ります。行き先はインドネシア(バリ島)、シンガポール、タイ、ブルネイ、マレーシアです。初めての「先進国」と呼ばれている国以外への旅なので、楽しみです。来月の報告書は東南アジアの旅について書こうと思います。

勉学の状況

11月はセメスターが終わるということで、Final Examがありました。試験期間は全学7万人の学生が一斉に試験期間ということもあって、Sir Matheson Libraryという大きな図書館は朝8時に開館すると9時までにはB1~4Fまで全ての勉強スペースが埋まってしまい、その後に行くとは勉強できないという環境だったので、8時に図書館に行くように心がけていました。試験勉強は、最後の授業で行った模擬テストの解き直しや、12週間全てのレクチャー録画の見直し、毎週の課題の解き直しなどをしました。以前の報告書で言及したかわかりませんが、モナッシュは全てのレクチャーが録画されているので、それを大学の学生ページから公式にいつでも見直すことができます。日々の勉強や試験対策には最高に役立ちます。

試験は、Caulfield Race Course という Monash Caulfield Campus の近くにある競馬場にて行われます。競馬場が試験会場だなんて、普段は馬が走っている草か土の上に椅子と机を置いて青空試験でもするのかと思っていましたが、ちゃんと屋内のラウンジみたいなところで行われました。5000人ほどが1度に試験できるそうで、とても大々的に試験が執り行われたように思います。といっても、会場の前方にはバーやスロットゲームなどがあって試験会場には適さないかなと面白く思いましたが、これも海外ならではの試験前の緊張をほぐしていただきました。試験自体は全部解けて、よくできた気がします。2時間の試験のうち、1時間強で済ませて出て行く人も多くいましたが、僕はフルタイム使って解きました。少し難しかったですが、日々の勉強があればしっかり対応でき、思っていたほどビビらなくていいと思いました。結果は数週間後にオンラインで返ってきます。

全体的には、セメスターが終わってしまったので勉強量は学期中に比べかなり減りましたが、一時帰国中に受けるTOEFLやIELTSなどの試験勉強を少しずつしています。また、一時帰国中に就活セミナーやインターンに参加できるように準備しています。

特に勉強面について書くことはありませんが、TOEICを受けてみようとして海外会場と東京会場を調べてみたら、海外会場は日本の5倍近い受験料が必要でした。これはさすがに目が飛び出しました。やはり日本で受けるのが1番だと思いました。一時帰国中にしっかり結果を出したいと思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/12/6 ～2018/1/5)

生活の状況

やっと試験が終わりこれから約3ヶ月の長期休みということで東南アジア巡りをしてきましたので、その時のことについて書こうと思います。僕自身が感じたことを率直に書いていくつもりなので、失礼な内容もあるかもしれませんが、一個人の意見として流していただけだと思います。

11月後半から12月の年末までのおよそ1か月、インドネシア（バリ島）、シンガポール、タイ（プーケット、クラビ）、ブルネイ、マレーシア（ランカウイ、クアラルンプール）の5カ国7都市を巡る旅をしました。僕は、今までヨーロッパやアメリカ、オーストラリア、ニュージーランドなどの、いわゆる「先進国」にしか行ったことがなかったので、今回は人生で初めての発展途中の国への旅となりました。僕は食べ物において好き嫌いが激しく、特に東南アジア料理は僕にとっては嫌な匂いとイメージのせいで、口に近づけられないくらい嫌いでした。そのため自らの意思のもと東南アジアの国に渡航するなんてことは一生ありえないと思っていましたが、モナッシュ大学で出会った友達が東南アジア巡りの旅に行こうと誘ってくれたので、もう二度と訪れないであろうこの機会に、自分がそのような国でどのくらい生きることができるのか試してみようと思い、最悪1か月何も食べず生きるという覚悟を決めた上で旅に行くことにしました。



バリの最初の宿泊先にて



最初に、メルボルン空港から空路でインドネシア・バリ島に行きました。7つの行き先の中で環境的にはマシな方だろうと考え、僕が東南アジア生活に慣れるために難易度があまり高くないということと、試験が終わったご褒美的なノリでバリを最初の目的地に設定しました。バリと言えばリゾート地のイメージが強く、ハワイと同じようなところだろうと考えていましたが、現実にはイメージとはかけ離れていました。あくまでもインドネシアの一部という感じで、空港から宿泊先のヴィラやホテルまでは、教科書な

どでよく見る東南アジアの渋滞風景そのもので、道路脇の家などは簡易的な家ばかり立ち並び、人々の服装も最低限といった感じでした。少し市街地を出ると道路が舗装されていなかったり、隕石でも落ちたのかというくらいボコボコになった道があるなど、インフラ的にも整備が行き届いていない印象でした。また宿泊先のホテルは、リゾートが外部と遮断され外国人観光客が多く滞在している一方、リゾートのゲートからタクシーで一歩出ると貧しい人たちが物乞いや掃除（掃除をしてチップをもらう）などをしている状況を目の当たりにしました。敷地を隔てるたっ

た一枚の壁を境に貧富の差が存在し、こんなにも違う世界とそこで生きる人たちが存在するのかもしれない、考えさせられることがたくさんありました。タクシーの運転手さんや、お店の人、ホテルの人などバリの人はみんな日本が大好きだそうで、とてもフレンドリーかつものすごく親切でした。オーストラリアに留学している話や東南アジア巡りをしている話などで、どこでも誰とでも話が盛り上がりました。食事は思ったよりも美味しく、地元のローカルなお店でローカル料理をたくさん食べました。特にナシゴレン（チャーハンのようなもの）が僕は気に入ったので、朝・昼と毎日2回食べていました。マクドナルドなど日本でもよく見るお店もたくさんあり、そう言ったチェーン店も世界の隅々まで浸透しているんだということも改めて感じましたが、さすがにバリに来てまでそういったものを食べる気にはならず、僕も現地のものだけを食べて生きていくことができるまでには成長したんだと我ながら感心しました。また、海のアクティビティもたくさん挑戦し、楽しかったのですが、バリの海は汚いです。観光客が多すぎるからでしょうか。再び訪れることはないと思います。後述のクラビ（タイ）やランカウイ（マレーシア）の方がよほど綺麗でした。総じて、最初の滞在先としてはとてもよい場所でした。楽しく休暇を楽しむことができたのも、激しい貧富の差を身をもって目にすることができたのも、貴重で意味のある経験だったと思います。



ナシゴレンとドラゴンフルーツジュース

次に、バリから飛行機でシンガポールに行きました。出発した日の午後バリ島の火山が噴火したので、奇跡的にその前に脱出することができました。シンガポールでは、セントーサ島やオーチャードショッピングエリアなどのザ・観光スポットをメインに観光しました。この頃にはだいぶ東南アジアの食事にも慣れてきました。Hawker Centre という色々なお店があるフードコート



シンガポール中心部の Hawker Centre

うな場所では、かの有名なチキンライスを食べました。日本やオーストラリアで食べるチキンライスの軽く100倍はおいしかったです。他にも、地元の人が教えてくれたフードコートのような市場に行き、小籠包などの中華料理も食べましたが、どれもおいしかった記憶があります。また、宿泊先はAirbnbの民泊の中から予約したシンガポール市街地のマンションに滞在しました。ホテルに泊まるよりも安く、さらには現地の人たちが実際に住んでいる家をお借りしてステイさせてもらうことになるので、よりシンガポールを感じられる生活をすることができました。全体的な感想としては、シンガポールはイメージ通り綺麗な国で、地下鉄などの公共インフラも整備され、マリーナベイサンズなどの高層ビルがそびえ、ザ・先進国という感じがありました。シンガポールではみんな英語が喋れて通じるので、コミュニケーションには困りませんでしたが、Singlish（シンガポール・イングリッシュ）は聞きとるのが大変でした。モナッシュでもシンガポールの友達の英語は聞き取りが難しいので、シングリッシュ慣れしたいと思いました。生きる上で困ったことは全くなく、安定



Hawker Centre のチキンライス

した生活でした。

3カ国目はタイに行き、プーケット島とクラビの2都市を訪れました。プーケット島では、残念ながらほとんど雨だったので、基本的には食べたり飲んだりしてタイを楽しみました。フォーや豚しゃぶやトムヤムクンなどのタイ料理に挑戦しましたが、僕には結構厳しかったです。特に僕はパクチーが大の苦手で、その分厳しさも倍増でした。買う場所



タイの3大ビール



タイのレストラン

も、道端の屋台のような場所やボロボロのレストランだったり、衛生的に大丈夫かこれ？と疑問に思うような食事の提供ばかりで、僕には厳しかったです。ただ、タイには3つの有名なビールがあるということを知り、地元の人に教えてもらい、飲み比べをしました。どれもとても美味しかったです。個人的には Shang という緑色の銘柄のビールが気に入りました。ぜひお店などで入手出来る機会があれば、飲み比べてみると楽しいかもしれません。また、最終日に毎朝狙っていた地元の蒸し料理店で朝ごはんを食べることができたのですが、これが感動的に美味しかったです。東南アジアでこんなにも美味しいと思える料理に出会えるとは思っていませんでした。

次に、クラビという都市にバスで移動したのですが、この時は人生1番の衝撃を受ける出来事がありました。プーケットからクラビまではバスでおよそ3時間半ほどの距離なので、飛行機ではなくバスで移動することにしたのですが、この時のバスはファーストクラスだったにも関わらず、お守りのようなお猿さんのぬいぐるみがバス中に大量に吊るされており、車内には大量のアリやクモがおり、そして狭い2階建てのバスという、自分にとっては衝撃的すぎました。「ここが君たちの降りる場所だよ」と運転手に言われておりた場所も、四方一面が畑で何もない場所で、たまたま通り掛かった地元のおちゃんがタクシーを手配してくれなければ確実にのたれ死んでいました。この奇跡的なおじさんとの出会いによってクラビにたどり着くことができ、僕たちの旅の次のステージへ進むことができました。

クラビは、プーケットに比べて湘南のような‘地元の海沿い’感が強く、とても快適に過ごすことができました。そこからボートに乗ってフィーフィー島 (Phi Phi Islands) などの島に行き、海水浴やシュノーケリングを楽しみました。このエリアは、レオナルド・ディカプリオ演じる「ザ・ビーチ」というハリウッド映画の舞台にもなった場所で信じられないくらいとても綺麗でした。このツアーでは、同じツアーだったアメリカ人観光客グループと仲良くなり、色々な話をして盛り上がりました。英語で意思疎通できれば、観光地の他の外国人観光客とどんどん仲良くなることができ、その分楽しさも増すことを実感しました。また、たまたま開催されていた地元のマーケットにも足を運び、屋台で買い食いしながらステージの出し物を観て盛り上がり、タイのお土産を買ったりするなど、とて



Phi Phi Islands



タイのマーケット (クラビ)

も楽しみました。総じて、プーケットとクラビは少し田舎ということもあるかもしれませんが、海がとても綺麗でした。僕にとってタイの食事は想像通り厳しかったのですが、なんとかまだ生きています。次タイを訪れる時は、バンコクなどにも行ってみたいです。

さて、旅も後半にさしかかってきましたが、4 か国目はブルネイに行きました。空路でクラビからクアラルンプール経由でブルネイに入国しました。あまり馴染みがないと思うので簡単にブルネイの説明をしておくと、ブルネイという国はマレーシアの一部とともに1つの島に国土を持ち50万人程の人口で、天然ガスや石油の輸出のおかげで2015年の一人当たりの国民総所得（GNI）は日本を上回っており、シンガポールについてアジアで2位というまさかのかなり



中心部のモスク

裕福な国です。空港に到着すると、空港自体は小さいもののさすが石油で潤っている

という感じが漂っていました。街に出ると、中心地でもほとんど何もなく、モスクと広場があるくらいでした。フードコートで挑戦したレモンチキンの料理は、チキンのから揚げにオレンジジュースをかけたような味で、正直激マズでした。ブルネイで食べた食事は基本的には美味しくなかったですが、僕が今まで体験したことのある食文化とは違った世界を経験できるということも、価値あることだと考えられるようになりました。ブルネイは国として本



中心部のモスクと広場

当にイスラム臭が強く、モスクや食事など、ここまでイスラム感の強い国に来たことがなかったので、とても不思議な感じでした。治安も良く、とても過ごしやすかったです。ただ、超車社会なので、バスなどの公共交通機関はほとんど通ってなく、ほとんど徒歩移動でした。

5 か国目はマレーシアに行きました。まずは、空路でブルネイの空港からクアラルンプールを経由してランカウイ空港まで飛び、ランカウイ島という比較的大きな島のリゾート地に滞在しました。ランカウイはリゾート地なので、メインの通りは色々なお店や免税店が出ていてかなり観光地化しています。ヴィラにステイし、海やビーチやマリナクティビティなどを楽しみました。ここでも船で島に連れて行ってもらって、シュノーケリングを楽しみました。



とても綺麗なランカウイ島のビーチ

最後に、空路でランカウイ空港からクアラルンプール空港に戻りました。一緒に旅行していた友達がクアラルンプール出身なので、案内してもらいました。クアラルンプールではKLセントラル駅前のホテルに滞在しましたが、駅はたくさん電車が乗り入れ人の行き来も激しく、部屋からの眺めは日本のように高層ビルが立ち並び車や高速道路などの交通インフラの発展も著しいという印象でした。特にKLCC（ペトロナスツインタワー）はマレーシアの発展を象徴しているような壮大なもので、中のショッピングセンターは西洋化がかなり進んでおり、



KLCC ペトロナスツインタワー

日本の百貨店の特大版みたいでした。その他にも、パビリオン（ショッピングセンター）やミッドバレーのメガモールというショッピングセンターなど、KL市街地はとても公共施設・商業施設ともに発展しており、生活水準も比較的高そうな印象を受けました。メガモールの中には牛井の吉野家が入っており、帰国寸前だったものの我慢できず食べてしまいました。味は本物の吉野家でした。しかしながらマレーシアもかなり貧富の差が明らかな場所で、ス



クアラルンプール郊外の街並み

トリート1本挟んだだけでガラッと世界が変わるような場所でした。KLセントラルからタクシーでKLCCに向かう途中、大通りを挟んで右側はオフィス街でビジネスマンが歩き回りレストランなどの飲食店も発展している一方、左側はいわゆるスラム街のような場所であったりもしました。今まで自分の目で見ただけでは突出して貧富の差が明白なクアラルンプールでした。それでも、そこそこのお金があって住むならば、今回巡った7都市の中で1番住みたいと思う場所でした。将来仕事などで東南アジアに配属される機会があるとなれば、迷わずマレーシアを選ぼうと思います。



バンガサ・エリアの食事処

今回の旅は、飛行機にたくさん乗りましたが、最初のバリから最後のクアラルンプールまでは7回飛行機に乗りましたが、飛行機代はプロモーションのおかげで一人合計18000円＋各種税金だけで済ませることができました。Airbnbの民泊やホテルも東南アジアなら休めの料分で宿泊できますし、タクシーばかり使いましたがプロモーションのおかげで半分以上は無料乗車でした（UberやGrabを駆使しました）。バリやタイでのマリニアクティビティ代は外国人料金なので割高でしたが、それ以外は安く済ませることができました。合計で1か月滞在しましたが、総合計一人30万円ほどで済ませることができたと思います。大学生の長期休暇のうちにはしかできないことなので、投資する価値があったと思います。

全体的な感想としては、東南アジアの国々は僕が想像していたよりもはるかに発展しており、日本と同じような生活ができるまでに発展しているということがよくわかりました。グローバル化による東南アジア諸国の発展スピードは凄まじく、日本を始めとする先進国もすぐにキャッチアップされてしまうだろうなと思いました。このようなことを身をもって知ることができたのも、この東南アジア諸国巡りの醍醐味であったと思いますし、留学してたからこそできたことなので、良かったと思います。

来月は日本に滞在する予定なので、それについて書きます。

勉学の状況

勉強についてですが、今月はしていません。せつかくの休みなので、休みます。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/1/6 ～2018/2/5)

生活の状況

今月は日本に滞在しています。長期休みなので、気休めがてら日本で長期休暇しているのと、インターンや英語の試験や成人式などのイベントに参加するため、少し長めの日本滞在になっています。

インターンについては、シドニーの就職セミナーに参加したことをきっかけにとある会社の方と親交が深まり、2年生ながら冬のインターンに参加させていただきました。こういったご縁もとても大切なものだと思感しました。

また、留学前に家を退去して荷物を引き払ってしまったので、日本滞在中は関東圏の友達の家を転々と泊まらせてもらいながら生活をしていました。実家の岡山に帰省したのは2週間ほどで、それ以外は色々な友達の家でお世話になりました。彼らにたくさんお世話になる中で、彼らと自分の留学について話すということは、自分の留学を見つめ直すという良い作業になりました。そのおかげで、自分はこういったことが実践できているから継続しようとか自分はこういったことに挑戦することもできるなといったことが、人と話しているうちにわかるようになってきます。これらは自分にとっていい刺激になりますし、留学中に目標達成するためのモチベーションアップ・維持につながるので、ダブルでありがたいことだなあと思いました。

勉学の状況

日本に帰国している間に、TOEIC のテストを受けました。IELTS や TOEFL などのテストを受けることは面倒に感じたため、逃げの TOEIC のみになってしまいましたが、990 点まであと少しのところまで到達することができていました。留学によって、特に試験対策しなくてもそれだけの点数が取れるまでに英語力が上達した嬉しさがありましたし、モナッシュ大学の他の交換留学生との比較で、もっと頑張ろうというモチベーションアップにつながったりもしたのでとても有意義な試験だったと思っています。次は満点取れるように頑張りたいです。

勉強は、今月も特にしていません。前セメスターのモナッシュ大学の教科書の読み直しやレポートやテストのレビューもしましたが、日本にいる間になかなかそんなやる気にはならないので英語テストを受けたりなどの最低限のことをしました。来月からはいよいよモナッシュ大学の新年度が始まるので、気合を入れ直し最後の留学を頑張りたいと思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/2/6 ～2018/3/5)

<生活の状況>

長かった夏休みも終わり、久しぶりにメルボルンに戻ってきました。もう夏の終わりですが、それでもまだ 35 度前後の気温があり暑いですが、しかし日本と違って湿度がとても低くカラカラなので、汗は全くかきません。まだまだたくさん「午後はビーチ」みたいな生活ができそうです。

東南アジア旅行も合わせると約 2 か月もメルボルンを離れていましたし、前セメスターまで住んでいた学内の寮も退去したので、フレッシュな気持ちで生活をスタートしています。今セメスターからはシティのアパートメントを借りて住んでいます。アパートメントはシティにある Royal Melbourne Institute of Technology (RMIT 大学) のビルの目の前にあり、他にも University of Melbourne, Victoria University などの他の大学がたくさん存在するので同じアパートメントに他大学の人が住んでおり、他大学との交流が可能になりましたし、早速おしゃべりをして仲良くなってきました。ただ、モナッシュのキャンパスからは遠くなり、トラム (路面電車)・電車・バスを乗り継いで 45 分ほどかけて通学するようになりました。うちのマンションにモナッシュに通ってる学生はいません。それでも、シティはメルボルンの全てが集まっていると言っても過言ではなく、ヒト・モノ・情報がたくさん集まりますし大規模なイベントもたくさん開催されています。以前はシンガポール政府が主催のシンガポール祭りがあり、シンガポールの歌手やタレントがステージに勢ぞろいしチキンライスなどの料理や飲み物を無料で提供するという、半端ない野外イベントにシンガポール人の友達に誘われて参加しました。今回のタームも学生・社会人の新年度ということでたくさんイベントがありそうなので、参加してみたいと思います。

今月は、久しぶりに友達に会う機会が多かったです。高校留学時の高校の友達やサッカー部の友達にたくさん会いました。彼らはメルボルン大学や RMIT 大学に通っているので今まではめったに会うことができませんでしたが、今月からシティに住むので彼らとも頻繁に遊べるようになりそうです。

学生生活最後の留学なので、気を引き締めて頑張っていきます！

<勉学の状況>



ついに後半のセメスターが始まり、勉強も本格的に再開してきました。オーストラリアは新年度の授業が2月始まり（1月は夏休み）なので、教授や学生も変わるのでとてもフレッシュな気持ちで授業に臨んでいます。また、新入生や新しく来る留学生がたくさん来たので、新しく友達ができるようにも頑張っていきたいと思っています。

去年の半年間は Public Health (公衆衛生学), Epidemiology (疫学) を主に学んできましたが、今回のセメスターは Migration and Development (移民学), Natural Hazards and Human Vulnerability (災害学・開発学), Health, Culture and Society (社会医学) の授業を履修しています。だいぶモナッシュでの生活に慣れてきたということもあって、日々の勉強の効率は上がってきているように思います。まだセメスターが始まって2週間ほどなのでレポートやプレゼンテーションの課題はありませんが、それでも毎週それぞれの授業で60-100ページくらいのリーディング課題があり授業によっては毎週のミニレポートの提出があります。教科書や論文は文字が小さいですし、60×3コースで180ページくらいは最低でも読んでいる計算になります。とても多いですが、モナッシュで勉強しているというだけでモチベーションが高まるので、何も問題ないです。前セメスターの半年間でだいぶ英語力も上がったと思うので、課題にかかる時間も減りました。

まだまだ序盤なので、これからもモチベーションを維持して頑張ります。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/3/6 ～2018/4/5)

<生活の状況>

暑さもだいぶ引いてきて、朝と夜は涼しくなるようになってきました。

今月はモナッシュ・カレッジ (Monash College, モナッシュ大学の準備機関)に、お茶の水大学・九州大学・大阪大学のご一行様が 1 か月の短期留学プログラムで来ています。僕は交換留学生ではありますが、ジャパニーズクラブが主催のオリエンテーション兼歓迎会に運営側のボランティアとして活動しました。ジャパニーズクラブは日本や日本文化の好きな学生が集まっているサークルで、日本人は 10 人ほどしかおらず (モナッシュは 77000 人の学生のうち 20 人も日本人いないです)、日本人以外は 100 人くらいいます。その中でグループを組んでボランティアをするのですが、当然カレッジの子たちも英語を学びに来ているので日本人同士でも英語で話をします。様々なゲームや学内の探検 (モナッシュ大学とカレッジは同じ敷地内にある) を通じていろいろな人と関わり、日本人の学生や今まで知らなかった同じクラブの子と話すとてもいい機会になりました。ここで個人的に嬉しかったのは、カレッジの子たちから後々耳にしたのですが、僕はネームが日本人の名前なのに英語が綺麗でものすごい喋るからオーストラリア生まれ育ちの日本人だと 1 日中思っていた、と言われたことです。これはやはり嬉しかったです、僕は高校留学時から日本人の前で英語を話すことをとにかく嫌っていましたが、これを日本人に、しかも千葉大より優秀な大学の子たちに言ってもらえたのは自信ができました。今までオージーのクラスメイトや教授から「君留学生なのに英語よくできるね！」と耳にタコができるほど言われても特に嬉しいともなんとも思いませんでしたが、日本人に「外国育ちみたい」と 1 回言われるのは格別だとしみじみ思いました。普通の人には逆に感じるかもしれませんが。

そして、同じグループだった 5 人のカレッジ生と意気投合して仲良くなったので、グレート・オーシャン・ロード (Great Ocean Road) へ 1 泊 2 日の旅行へ行きました。グレート・オーシャン・ロードは、メルボルンからアデレードに向かう途中にある 300 キロほどの海岸沿いの道で、海を越えればタスマニアや南極がある、というロマンあふれる道路です。永遠に続く景色はとても綺麗で、世界中の大手自動車会社の CM 撮影に使われ、Mr. Children の Tomorrow never knows



のロケ地にもなったそうです。僕ら交換留学生も1年いて1度行くか行かないかのような場所なので、ぜひ思い出作りにと思い行きました。

また、Melbourne Victory というプロサッカーチームの試合観戦にも友達と一緒に行きました。メルボルンの中学校時代の友達がプロで、その日先発で出場していたので、もちろん見に行きました。そしてヴィクトリーは年間リーグ優勝してしまうという、なんたる奇跡でしょうか。試合後にクラブハウスに会いに行き、長々と話をしてしまいましたが、8年ぶりの再会はとても感動的なものでした。これでサッカー観戦は終了したので、次は帰るまでにフットィ (Footy, Australian Football の略で、ラグビーのようなスポーツ) の試合も見に行きたいです。Footy はオーストラリアで大変人気なスポーツで、イングランドやドイツに熱狂的なサッカーのサポーターがいるように、オーストラリアには超熱狂的なフットィサポーターが山ほどいます。だいたい試合が行われる MCG (Melbourne Cricket Ground) スタジアムの最寄駅である Richmond 駅には、週末は熱狂的なファンが歌って騒いでホームも電車もお祭り状態なのをよく見かけるので、必ず行ってみたいと思います。



< 勉学の状況 >

早いものでもう 3 分の 1 が終わってしまいました。だいたい中間に大きなレポートやプレゼンテーションが課されることが多く、僕のクラスでもボチボチ課題が出始めました。この時期になるとモナッシュの図書館は朝 9 時に行かない限り席が空くことはないくらい混雑しているのです。州立図書館や RIMT 大学、自宅で勉強するようになりました。州立図書館や他の大学の図書館で勉強できるというのは、シティに住んでいるからこそ受けられる恩恵だと思いますし、いろいろな場所に足を運んで勉強することができるというのは、モチベーションを高めるのにも役に立っています。ちなみに州立図書館はとてもアンティークですが綺麗なため、上の方の階は観光地化しています。僕も便乗して写真を撮ってきました。

そんなのんきに写真を撮るパシャパシャしている場合ではあり



州立図書館の中の一部、観光地化した 5 階より

ませんが、こんな図書館で勉強できる“今だけの時間”に感謝しながら、感じながら勉強の方も頑張っていきたいと思っています。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/4/6 ～2018/5/5)

<生活の状況>

4月もあっという間に過ぎ、気がつくともうセメスターも後半戦です。1年間の留学の75%が終わってしまいました。もう直ぐ留学が終わってしまうという焦りがだんだんと強くなってきました。しかし、日々の課題がとても多いのでそれどころではなく、とてつもなく時間が早く過ぎていきます。

そんな中、4月の前半に1週間のMid Semester Breakがありました。これが僕にとってオーストラリアでの最後のまとまった休みになります。メルボルンもだいぶ暑さがなくなったので暖かいところへ行きたいと思い、友達とブリスベンとゴールドコーストに旅行に行きました。

まずは空路でブリスベンへ。メルボルンからは3時間ほどです。ブリスベンでは、主に市内観光とモートン島のアクティビティの2つをしました。市内観光は特にすることがなかったので、Queen Street Mall というメイン通りとショッピングセンターのようなものがあるので、そこをぶらぶらして面白いものを探しました。基本的にはメルボルンのしょぼい版といったところでしたが、韓国料理だけは美味しくいただきました。なぜ韓国料理と思うかもしれませんが、オーストラリアの韓国料理店はものすごく美味しい店ばかりで、しかも普通の洋風（グリルやイタリアンなど）のお店よりも格段に安く美味しいものが食べられます。また、昔お世話になったホストファミリーもブリスベン近郊に住んでいるので、アポを取って友達も連れて家に遊びに行きました。彼らのお家にホームステイした当時僕は中学2年生だったので8年ぶりの再会でしたが、彼らは僕の英語力の伸びをととても褒めてくれました。比較対象が中学生の自分なので当たり前ですが、それでもやっぱり当時あれだけ苦労していた僕がこんなにも円滑にコミュニケーションを取れる日が来るとは夢にも思っていなかったと思います。僕自身にとってもこの場所は僕の視野を広げ2度の留学という道を照らし出した原点のような場所なので、自身の成長を感じるとともにさらなる成長を誓いました。

ブリスベン滞在中の1日を使ってモートン島という島に行きました。この島はブリスベン沖合40キロにある世界で3番目に大きな砂の島で、透き通った綺麗な海に囲まれながら陸地はほぼ全て砂という不思議な島です。海では透明なカヤックに乗って探検したり、シュノーケルで沖合に座礁・沈没している難破船の探索をしたり、内陸で



サンドボード（砂丘を板で滑り降りる、冬のソリの夏版）をしたりと飽きないほどアクティビティをしました。クイーンズランド地方らしいアクティビティで、とても満喫しました。新婚のカップルが多かったのも、僕も結婚したらモートン島に戻ってきたいと思います。

次に電車でゴールドコーストへ向かいました。電車で1時間半ほど、値段は15ドル(1400円程度)でした。ちょうど滞在中に Commonwealth Game (コモンウェルスゲーム、4年に1度行われる旧イギリス植民地とイギリス連邦関係国によるオリンピックのような競技大会)が行われていたため、街はとても綺麗に整備され路面電車が新設され、ビーチ沿いの近代的な都市、といった印象です。サーファーズパラダイスと永遠に続く遠浅のビーチは憧れの場所です。せっかくこんなところへ来たのだから、サーフィンしよう！ということでサーフィンレッスンを受けました。レッスンでは韓国やスイスの大学生たちと同じグループに振り分けられ、みんなでサーフィンを楽しむことができました。他の日は、ビーチでのんびりしたり泳いだり走り回ったり、ショッピングモールに出かけたりと、かなり贅沢な休日を過ごさせてもらいました。

十分すぎるほどリフレッシュできたので、泣いても笑ってもあと2ヶ月、悔いのないように勉強も遊びも何事も全力で取り組んでいきたいと思います。

<勉学の状況>

1週間の休みではしっかりリフレッシュしましたが、その休みのせいで課題がモリモリに出ました。プレゼンテーションは数週間後に割り振られましたが、2500字ほどのレポートを3つほど課されまして、死にそうでした。2500字を書くのは1日あれば十分終わりますが、それに対する準備としてのリサーチ・リーディング・構成という段取りが何よりも大変です。しかも、Reference (参考文献)は最低10冊とか平気で言ってくるので、勘弁してくれという感じが未だにあります。今でもレポートで要求される参考文献の数だけは嫌いで、頭が5個あったらいいのになあといつも願っています。

授業では、またもやどの授業でも留学生が僕だけという奇跡が再来しましたので、好き勝手喋りまくっています。チューター（ワークショップの先生）も僕にいつも喋れと言って当ててくるので、僕も応戦している、という構造でしょうか。それでも、何も喋らずポケーっとしているよりは100倍マシだと思いますし、留学に来て積極性だけは欠いてはならないというのが個人的な意見ですので、学生生活最後の留学にふさわしいような積極性を意識するようにしています。

この調子でこれからも頑張っていきます。



GoPro で水中撮影。サメにも遭遇

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/5/6 ～2018/6/5)

<生活の状況>

最近は授業や課題、サッカー部の活動でとても忙しく、気づけばもうあと1か月もないような状況になってしまいました。6月19日には最後の最終試験があり、その2日後の21日の夜には日本に帰ります。試験勉強もありますし、サッカー部の練習や試合もありますし、友達とたくさん遊んでおかないといけませんし、買いたいものを買って行きたい場所に行っておかないといけませんし、忙しい毎日です。

今月は友達の誕生日パーティーがあったので、おうちにお邪魔してきました。こちらはホームパーティーや誕生日パーティーというと、ほとんどの場合本人の家で行います。俺の誕生日だ、俺がパーティー開くからみんな俺の家集まって盛大に祝おうぜ！というスタンスでみんな集まり、たいていの場合はドレスコードがスマートカジュアルに設定されていてみんなオシャレな格好をします。今回は前のセメスターに履修していたPublic Healthのクラスの友達の誕生日だったのでみんなで集まろうということになりました。彼の家はメルボルンの中心部から電車で50分ほど走ったところにありますが、さすがはオーストラリア、誰の家に行ってもデカくて綺麗です。中心部はさすがに高層マンションが多いですが、郊外へ出ると3階建て以上の建物はほとんど存在せず、どこまでも平面に広いお家が続きます。さて、最寄りの駅からは友達を送迎してくれ、みんなで会場に向かいます。僕は誕生日プレゼントとして、アジアンマーケットで購入した日本のビール6本セットと日本のお菓子を大量に買ってセットにして渡しました。日本で同じものを購入すると2500円くらいで済むと思うのですが、全てオージー価格ですから75ドル(7000円くらい)しました。安い日本に連れて来たいですね。パーティーでは、家やバックヤードでお酒を飲んだり話をしたりゲームをしたりしました。僕たちは“大学の友達”“梓”でしたが、他にも小中高校の友達もたくさん来ていて、初対面ですがすぐにコミュニケーションで打ち解けて仲良くなれました。フレンドリーで初対面とは思えないくらい話しまくるのがオーストラリア人の好きなところですね。それから最後のケーキは芸能人かと思うくらい大きかったです、オーストラリアは何もかもデカイ…

それから、念願のAFL (Australian Football League, フットイ)の試合も見に行くことができました。以前も紹介したと思いますが、フットイは円形のコートで行うラグビーのような競技で、蹴ったり投げたりしてパスしながらポールの間にボールを蹴り飛ばす競技です。オーストラリアではフットイが一番人気のスポーツで、フットイのことはとても熱くなります。時



にはヒートアップした人たちが街や電車で言い合っている場面もよく見ます。そんなフツティですが、僕のアパートメントが Melbourne Football Club とスポンサー契約を結んでいる関係で無料特典観戦チケットをもらえたので、同じアパートメントの友達と観戦し行くことにしました。行ってみるとスタジアムはとて大きくサポーターの数もとても多くて、7階くらいあるスタンドも全部埋まり溢れた観客が通路に立っているような人気ぶりで、大変驚きました。おそらく日本のサッカーのJ1リーグの試合よりも観客が多いのではないかと思います。たった1度しか観戦に行くことができませんでしたが、優待券のおかげでグラウンドフロアの前の席で観戦できました。ルールなどはすぐに理解できましたが、試合うんぬんよりもサポーターの盛り上がりとアツさに飲み込まれてある種のお祭りみたいな雰囲気ですごく楽しかったです。



ラスト1か月ありませんが、やり残すことがないように何でもやりたいと思います！

<勉学の状況>

いよいよセメスターも終わりが近づいています。プレゼンテーションやレポートなどがまた大量に課される時期になりました。もうクラステストもプレゼンもレポートも何でも慣れてきて、比較的短時間で効率よくできるようになりました。最近ではせっかくシティに住んでいるということで、カフェに行って少し勉強したり、勉強の合間に友達とカフェやジェラートの店を巡ることにハマっています。メルボルンはカフェのアートの街と呼ばれるくらいカフェが昔から地域に根付き、たくさんのローカルカフェがあります。スターバックスがオーストラリアで展開する中で、人々がローカルのカフェの味を好きすぎて、メルボルンでの展開や業績に苦しんだという話はメルボルンの人々の中で有名だそうです。また、メルボルンは100年以上前の移民大量流入時代にイタリア人とギリシャ人が大量に流入してきた影響で、ギリシャ料理やイタリアンなどの



地中海料理が本場のような美味しさで広く展開されています。その影響で
お気に入りのレモンブラックティー
ティラミスやジェラートなどのイタリアンスイーツはとても人気で、美味しいお店が沢山あります。毎日違うお店に行ってもとてもコンプリートできないほどたくさんの美味しいお店があります。僕は残りの滞在時間が少ないので、Google Map の高評価なところから順番に訪れています。

他にも、勉強ばかりの生活でも元気が出てモチベーションが保てるようにお昼ご飯も美味しいところを友達と探し食べ歩いています。Betty's Burger というハンバーガー屋さんには店舗数がほとんどないものの、とっても美味しいハンバ



ーガー屋さんで、穴場です。ゴールドコーストに行った時に **Betty's Burger** を知り、ハマってしまいました。オーストラリアに行くときは是非このお店で食べてみてほしいです。まだまだ他にもたくさん紹介したいですが、たくさんありすぎるので、ここら辺で終了します。

帰国するまでにもっとたくさん美味しいお店を探してたくさんお腹に蓄えておきたいと思います！

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/6/6 ～2018/6/21)

<生活の状況>

ついに6月が過ぎてしまいました。もうすぐこっちに来て1年経ってしまう、もうすぐ日本に帰らなければならないと思うと、とても焦る毎日です。友達と過ごす何気ない日常や、毎日通学時に見ているメルボルンの景色ももうすぐなくなってしまいます。正直千葉大学よりモナッシュの方が断然面白いので帰りたい気持ちはゼロですが、帰らなければならないのでそろそろ準備しています。

まずは先日サッカー部の最後の試合がありました。毎週ずっと一緒に練習を重ね試合でプレーしてきたチームメイトとの最後の試合となると寂しくなりましたし、彼らとプレーするのもこれが最後になるので一緒にモナッシュ生として出場できて幸せでした。週に3回顔を合わすので、自然と一緒に過ごす時間も長くなり自然と仲良くなっていきました。たった1人の留学生を受け入れてくれて感謝していますし、チームとして一緒だったことを幸せに思います。練習ではお互いのプレーについて激しく言い合ったこともありましたが、前の試合の結果が悪くて監督にぶち怒られながら部活動のように延々と走らされたこともありましたが。

試合では拮抗した試合の終盤に勝ち越しの点を決めて大騒ぎしたこともありましたが、対戦相手とやりあって乱闘騒ぎになった時にチームメイトがかばってくれたこともありましたが。試合に勝った時はクラブハウスでみんなで合唱して騒いで暴れまくるのが恒例で、本当に楽しい時間を過ごしました。やっぱりスポーツは人種やバックグラウンドを超えて人をつなげると再確認しましたし、みんなで目標に向かって一緒になって頑張るチームプレーやチームスポーツは、素晴らしいと改めて思いました。



他にも、最後だからしっかり遊んでおこうということで、学部、サッカー部、日本クラブ、寮時代の友達やさらには高校留学時の友達とも暇あれば集まって遊びました。そういえば、最近やっと日本の Izakaya がちらほらできてきましたが、それでもオーストラリアではお酒はものすごく高く、もちろん飲み放題なんて制度はありませんし、普通のパーやパブに行ってもビール一杯 (a pint) が最低 10 ドル (900 円くらい) はします。男は大抵ビールですし僕はビール大好きビールしか飲

まない人間なのでマシですが、女子が好きそうなドリンクは最悪で、あんなに小さなカクテルグラス一杯が 20 ドル (1800 円くらい) はす

るとい、本当にお話になりません。なので、一度バーに行くとドリンクだけで最低でも 3000 円から 5000 円が吹っ飛びます。ボーリングは 3 ゲームで 30 ドル (2500 円くらい) しますし、カラオケも一人 30 ドルしますし、とにかく遊ぶのにお金がかかる国ですオーストラリアは。それでも友達といると楽しいですし、帰国時にドルが余ってもなんなので、ほどほどに使って最後の思い出作りをしています。さて、先日ブライトン高校の友達と遊んだ時には、Hot Snack Pack という

オーストラリアなファストフードを食べに行きました。これはイタリアやギリシャ、中東などの地中海沿岸地域からの移民が多かったオーストラリアが生み出したと考えられている Kebab and Chips で、イギリスの Fish and Chips に取って代わる立ち位置なのでしょうか。アメリカ人の友達もイギリスから留学してきた友達も、みんなこんなの見たことも聞いたこともねえとぶつぶつ言っていました。チップスの上にケバブを乗せて、その上にチリソースやマヨネーズをお好みでかけて食べる、見た目によらず死ぬほど美味しい食べ物です。他にも、帰国前にオージービーフを腹に蓄えておこうということで、ステーキも食べに行きました。僕のお気に入りにはランプとアイフィレという部分のミディアムレア焼きで、柔らかくてとてつもなく美味しいです。

もう 2 年半になるメルボルンでの生活も、ほぼ終わりです。中学、高校、大学とそれぞれのステージで僕の成長の舞台となったメルボルンは、正真正銘僕のセカンドホームです。中学は両親と、高校はホームステイ、大学前半は寮、そして大学後半は憧れのメルボルン中心部のアパートメントに住むという夢も叶いました。モナッシュでの勉強を通して色

んなことを学びましたし、サッカーもできましたし友達もたくさんできました。様々な面で自分の中での意識改革に刺激を与えるような毎日がある生活でしたし、本当に最高の大学留学、メルボルン生活だったと思います。帰国間際に体調を崩して病院に行くというおまけもついてきましたが、それでも長い間体調を崩さず元気に楽しく過ごせてよかったです。ず



寮とサッカー部で一緒だった仲良しトリオ
ステーキと HSP



自宅からの夜景と昼のメルボルン中心部



っと憧れだったモナッシュ大学に留学できて、たくさんのいい仲間に出会えて幸せでした。

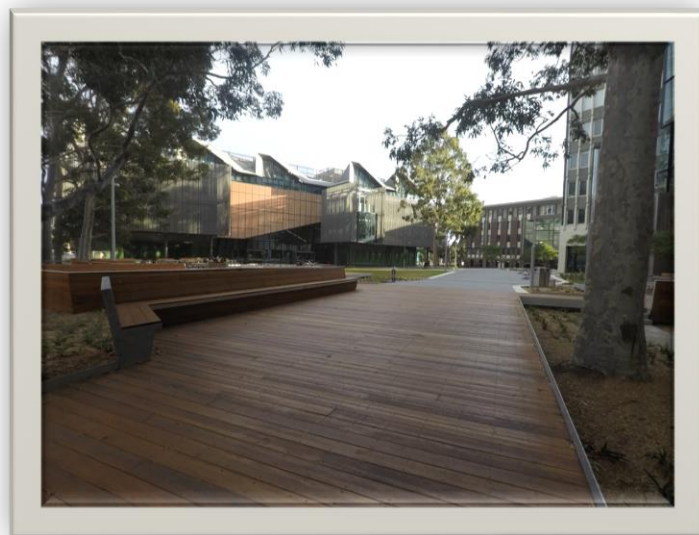
<勉学の状況>

こんな感じのアパートです

ついにすべての授業が終了し、最終試験を受けてきました。試験の難易度はそこそこでしたが、時間が足りなかったです。前回のセメスターの最終試験では、2時間の試験時間の中で1時間半くらいしたら半分の生徒は帰ってなくなっていました。今回はほとんどみんな最後まで残っていたところを見るとやはり時間が足りなかったのだと思います。前回のセメスターは全ての教科でパスしましたし、今回もレポートやプレゼンなどの他の課題の成績が良かったので、最終試験は全く心配していません。大丈夫だと思います。ただ、毎週の課題の中で読みきれないリーディング課題が残っていたりするので、今更ですが日本に持ち帰って英語と教養の勉強がてら読みたいと思います。モナッシュでもらった教材は何もかも宝物なので、消したり捨てたりなかなかできないので、これまた引越しの荷物が増えそうです。とりあえず無事に1年間の授業と試験を終えられたのはほっとしました。本当にアクティブで質の高い授業ばかりで、濃い過ぎる学びの日々を送ることができました。この1年間で脳みそのシワが大量に増えたと思っています。

最後に、1年間留学してたくさんのことを学びました。授業では公衆衛生学や疫学、災害学、開発学、移民学などのより専門的なことをたくさん学びましたし、サッカー部や友達と過ごしたりなどの普段の生活からもたくさん学ぶ刺激を受けました。あっという間に毎日が過ぎ去っていくような日々でしたが、とても刺激的で夢のような1年間でした。おそらくもう学生時代に留学することはないと思いますし、たちまちは就職するので次の海外は海外駐在などの仕事関係で行けたらいいなというところです。さすがに、もうオーストラリアはお腹いっぱいなので、他の国に行きたいです。それでも、高校留学時から

らずとずっと憧れてまた戻ってきたいと思っていたモナッシュ大学が千葉大と提携を結んでおり、しかも自分が交換留学生としてモナッシュで学べるチャンスができるとは、思っていませんでした。本当に留学できて良かったと思いますし、サポートしていただいた



Monash University Clayton Campus

方々には感謝しかありません。この報告書を見る方々がメルボルンとはどんな街か想像するためのきっかけになれば嬉しいです、この報告書を見てメルボルンやモナッシュに羽ばたく後輩が出てくれば、これ以上の幸せはありません。

この報告書が自分の成長の証として残り、将来振り返る時にモナッシュに留学したこともあったなあ、モナッシュで学べてよかったなあと思えたらいいなと思います。

本当に有意義で心から幸せな留學生活でした。ありがとうございました。